

令和5年度 学校関係者評価委員会

【日時】

令和5年11月2日（木曜日） 17:30～19:00

【場所】

泉佐野泉南医師会看護専門学校 2階講堂（対面）

【出席者】

井出 由起子（地方独立行政法人りんくう総合医療センター 副病院長兼看護局長）

濱田 眞由美（ベルランド看護助産大学校 副学校長）

山本 好男（大阪府立日根野高等学校 校長）

田平 昌代（泉佐野市役所 健康福祉部 健康都市推進担当 理事）

赤木 功（特定非営利活動法人 NAC 理事）

南 智子（IS太陽 会長）

野上 浩實（学校長）

家宮 久雄（事務局長）

西田 好江（副学校長）

上野 雅子（教務主任）

後藤 智子（実習調整者）

樋川 正仁（専任教員）

上久保 礼子（専任教員）

敬称略

～ I. 教育内容の発展と強化～

I-1 新カリキュラム導入2年目の達成と課題の明確化

	内容
取り組み	<ul style="list-style-type: none">・コンセプト科目では、専任教員が科目をデザインし、学生がコンセプトをより理解するための教材として、講師依頼をする。それにより授業テーマの依頼がより具体的となり、講師は事例を通して看護実践を語る授業をしてくれている。・電子教科書を用いた反転授業、アクティブラーニングを増加した。・電子教材（電子カルテ教材 Medi-eye, 国家試験対策医学書院 web）や ICT を活用した指導方法（Google クラスルームを用いた資料配信、動画、レポート提出、フォームテスト、動画による技術チェック）や、教育活動（海外からのライブ授業、遠隔にいる講師とのディスカッション、オンラインでの臨地実習カンファレンス）も活発に取り入れて実践している。
結果	<ul style="list-style-type: none">・新カリキュラムの GPA・成績の推移、模試成績の変化を経過観察する。・看護師の仕事は、単なる知識の記憶だけでは実践できないもので、状況に合わせて自分の力で「考える」力が求められているため、新生が入学後に学習方法が転換できるよう支援していく。またアクティブラーニングの課題が過剰にならないように調整する。・看護師国家試験 100%を引き続き維持していく。

I - 2 地域との連携強化

	内容
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムでは、3市3町内の様々な地域活動の場を「看護学生の学びの場」と位置づけ、地域調査や管内で行われる研修会、地域ボランティア活動など様々な形で参加させていただいている。 ・地域との相互活動が増え、連携が強化されつつあり、ボランティアの要請も増加し続けている。 ・地域のリソースとして、専任教員の活動の場が広がっている。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による制限がなくなったことにより、学生ボランティアのニーズが過剰になるおそれがあるので、地域の方に活動目的を十分に理解してもらうこと、充足できない場合は調整するなどの配慮が必要である。 ・教員が地域活動の場に参加させていただけることは、地域貢献を目的として設置している学校としては大変喜ばしいことであるがそれらを支援するための調整が課題となる。

I - 3 関連病院・施設との連携強化

	評価内容
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度はコンセプト型カリキュラムに関する合同学習会・合同指導者を2回開催した。11月以降も、新カリキュラムに関する実習（基礎看護学実習I-②、成人・老年看護学実習I：健康を守る、成人・老年看護学実習II：臨床判断の実践）について合同指導者会議を開催予定。 ・関連病院・施設には、コンセプト科目の「教材としての講師」について協力いただき、適切な講師を選定していただいている。科目責任者である専任教員が、直接、講師と講義内容の調整を行えている。 ・産学連携事業として、卒業前技術演習を令和5年3月に行った。 （*りんくう総合医療センター、永山病院、佐野記念病院、谷口病院、野上病院、阪南市民病院から看護師が演習指導員として参加） ・卒業生の演習アシスタント、模擬患者役制度を整備した。 ・IS太陽（同窓会）で、学校活動に参加した会員への応援金制度が整備された。 ・「コンセプトカリキュラムの実装」を日本看護学校協議会第33回学術集会で発表した。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・関連病院・施設と共に成長するために、心理的安全を保った新しい看護教育の在り方を、ともに学び続けられるよう、交流や学習機会を設けていきたい。 ・産学連携事業では、演習指導を行った看護師のモチベーションにつながったという意見をいただいている。令和6年3月にも継続予定である。

～Ⅱ. 受験生の確保～

Ⅱ－1

	内容
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス 対面1回、オンライン2回実施予定 ・Instagram や HP の投稿を増やす。 投稿数:49 フォロワー:142 (2023年10月30日現在) HPの一部改変 ・のべ14校に高校訪問・出前授業実施 ・学外リクルートイベントの実施 3月 大阪府看護学校協議会 南大阪地区看護学校合同ガイダンス 9月 とっておき音楽祭 ブース出店
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや高校への出前授業、学外リクルートイベントなど、教職員で力を合わせて実施中である。今後、どのようにすれば受験生が増加するのか、特に社会人(大学新卒を含む)の受験生のリクルート活動が課題となる。

Ⅱ－2 対外的な宣伝・学校のブランド化

	内容
取り組み	<p>地域に向けた学校主催の催しの開催</p> <p>【講演会】9月19日(月) 講師 草薙龍瞬先生 「アンガーマネジメント」参加者45名(実習関連施設、講師が参加)</p> <p>【学校祭】10月28日(土) 地元企業のキッチンカー4店舗出店</p> <p>雑誌への投稿</p> <p>1)令和5年3月 厚生労働省 令和4年度看護職員確保対策特別事業 看護基礎教育における地域住民と連携した教育事例収集事業 地域は教育の宝物! 地域と学校がともに作る連携教育展開の手引き 「泉州で活躍する7人のプロフェッショナルから学ぶ「泉州地域学」～地域を支える人から地域の誇りを学ぶ</p> <p>2) 令和5年8月 ナーシンググラフィカ創刊20周年記念 グラフィカ week 「教育機関と地域との新たな交流の可能性を考える」「ボランティア活動を通しての地域との交流と地域貢献」</p> <p>3)令和5年10月 医学書院 看護教育 心理的安全性の高い組織をめざして 組織の自主運営化へのチャレンジ 看護教育 第64巻 第5号 泉佐野泉南医師会看護専門学校 教職員一同</p> <p>学校オリジナルグッズの作成 IS ロゴ入りサブバッグ、Tシャツ・ポロシャツ、オリジナルクリアファイルの作成 泉州地域学 学生デザインのタオル作成 HP・インスタグラムの投稿</p>
結果	<p>引き続き、地域社会との繋がりを強化しつつ、学校の存在を広く地域社会で認知していただけるように Happy Humor Smile の精神で取り組んでいく。</p>

～Ⅲ.組織運営の改善～

Ⅲ－１ Change Program 導入にて自主運営型組織への発展

	内容
取り組み	<p>・新カリキュラム導入、オンライン化、コロナ禍での対応など様々な状況の変化に対応するためには、教職員組織の相互支援のある環境を維持しながら、仕事内容や分担、システムの見直しを図っていく必要があると考えた。</p> <p>①組織改革 Change Program 研修（オフィスマールス 出口郁子講師）の実施 →スタイルミーティング：、3月、6月、8月、11月、「信頼」「happiness」「心理的安全性」「情報の透明化」について話し合い誰もが働きやすい組織づくりに取り組み中である。</p> <p>②職員の happiness 度を上げるための取り組み ・休日の学生対応に関する待遇改善 ・情報の透明化委員会の発足：指導記録・指導体制の改善</p> <p>③雑誌への投稿：令和5年10月 医学書院 看護教育 第64巻 第5号 「心理的安全性の高い組織をめざして 組織の自主運営化へのチャレンジ」を教職員一同でグループワークなどを実施して執筆</p>
結果	<p>・組織改革研修は、事務を含む教職員全員で話し合っており、情報共有、相互理解が深まっている。職員の happiness 度を上げる取り組みから、学校のブランド化や実習配置の選択制、実習調整者から各担当への権限移譲など、どんどん進化している。さらに、これらの組織改革プロセスそのものが雑誌に掲載され、全国に知ってもらうきっかけとなった。</p> <p>・学習し進化し続ける組織を目指しているため、そのためには心理的安全性の確保が必須となる。また心理的安全性を高めることは、パフォーマンスの向上と離職防止につながるため、誰もが働きやすい職場環境にするための取り組みをこれからも続けていく。</p>

Ⅲ－２ 教職員の有給消化率の向上

	内容
取り組み	<p>・職員の有休消化率と代休の取得率を上げるための工夫を実施</p> <p>・休日の学生対応に関する待遇改善</p>
結果	<p>・令和4年度の有休取得率は37%~47%であった。</p> <p>・令和5年度は、まだ途中なので比較はできないが、この数値を上回るように、教職員が休みたいときに休め、活動と休息のバランスが上手く取れるような業務配置や職場環境を維持していく。</p>

Ⅲ－３ 財政状況の安定維持

	内容
取り組み	<p>・質保証・向上補助金や大阪府・3市3町からの補助金を活用して、学生が受けられる教育の質が改善できるように新しい取り組みを考えながら運営実施している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の老朽化に対しては、空調システムの改新をするなどとして、学生の学習環境を整えている。 ・様々な新事業を展開しているが、学校の予算内で収まるように工夫している。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の教育環境改善に必要な内容については投資しているが、無駄なく健全な財政状況を維持することができている。

IV. 数値目標

IV-1 受験生120人以上

	内容
取り組み	II-1 リクルート活動参照
結果	<p>オープンキャンパスでは期限までに募集人数120人に達している。また学校訪問も精力的に行っている。しかしながら受験生の数値目標には達成することが出来ていない。</p> <p>①リクルート活動の強化：学校訪問先の拡大、在校生の母校訪問、社会人に対してのリクルート、広報費の拡大</p> <p>②学校ブランド化の促進 地域との交流、積極的な情報発信</p>

IV-2 国家試験全員合格

	内容
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策として、入学時から継続して国家試験対策を行っており、3年生では模試を5回実施しており、定期的にモニタリングしながら最終的には全国平均以上の成績になるよう強化対策を行っている。結果として3年連続国家試験100%合格の成果を残している ・3年生の国家試験に向けた受験期間に入ると、国家試験対策を専属とする教員を配置しており塾に通うことなく対策できているところが本校の特徴といえる。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験100%合格はもちろんではあるが、卒業後に地域で貢献し、看護師としていきいきと働くことができる看護師の育成を目指している。 ・受験前の一番不安な時期に、専属の教員を配置することで、学生が安心して国家試験に向けて受験勉強をすることができる環境を提供していきたい。

IV-3 大阪府内就職率 80%以上、3市3町就職率 60%以上

	内容
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のアドミッション・ポリシーから、3市3町地域に貢献する意思のある人を対象に受験生を募集している。このことは、この地域の看護師不足を解消するために創立された本校が存続すべき意義とも重なる。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実習施設とも連携し、この地域の文化や特徴を理解し、地域で活躍したいと思う若者の育成をまちづくりの一環として継続していく。 ・また本校を卒業してから、看護師として働きながらも大学・大学院へと進学して学習を継続していく卒業生も支援し続けていく。

総評

令和4年度の指定規則変更に伴い、コンセプト基盤型カリキュラムを導入した。学習会や指導者会をはじめ、関係講師や施設に対しコンセプト学習の理解を深めてもらえるような取り組みが実施できていると考える。また新カリキュラムにおいて、より地域と連携したプログラムが取り入れられていることが、新たな関係強化につながっている。卒業生や地域住民とも連携した教育活動を取り入れていきたい。

リクルート活動に関しては、従来の方法にとらわれず、高校生以外の年齢層にもアプローチして看護師の仕事の魅力を発信していく必要がある。高校との連携に加え、学校活動を地域住民の方々に周知していただくよう、SNSやHPなどを通じ積極的に発信していきたい。

組織改革は、新しい取り組みを成功させるために重要な項目である。教職員全員で取り組む風土づくりにより、心理的安全性が保たれたより働きやすい職場づくりを目指していくことで、学生の心理的安全性を確保した教育環境を提供し続けたい。